
To see my face, and

北川瑞稀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

To see my face , and

【Nコード】

N7510K

【作者名】

北川瑞稀

【あらすじ】

「あなたはどうかしたら私を見てくれますか？」

卒業式の日、彼女は決意を固めた。

サイトからの再掲載です

この窓から見える、空が好きでした。

「…サド。」

窓際の特等席にひとり座って、空を眺めていた彼を呼んだ。
彼は、振り向かない。

「何か用ですかイ？…チャイナ。」

「何か用？じゃ、ないアル。卒業式、もうすぐ始まるアルよ？」

「…忘れてるわけじゃねエ…」

ぼつり、と彼はひとりごとのように言った。いつもはSで、物事
に対してもはつきりズバズバ言うのに、珍しい。

それならば、と私もひとりごとのようにつぶやく。

「留学、するってウワサ、本当アルか？」

彼は首を私のいるほうへ少しだけ傾けた。

「…ああ。」

そしてまた、視線を空へ戻す。

「…いつ行くアルか？」

「一週間後。」

「どこ行くアルか？」

「アメリカ。」

訊きたいこと、いっぱいある。

「どうして行くアルか？」

「…しいて言うならば夢を叶えるため…みたいな。」

「ふざけてるダロ」

「ふざけてなんかねー…」

「…本気、アルか？」

「…ああ。」

言いたいことも、いっぱいある。

「なんで私に何も言わなかったアルか？」

「…ごめん」

「お前が素直に謝るなんて、気持ち悪いアル」

「そうだな」

今日で終わりになんて、させない。
拳をぎゅっと、握り締めた。

「ねえ」

「…なんでイ、あらたまつて。」

「もし私が、お前のこと好きって言ったら、お前はどつするアルか？」

一瞬の間が空いて、彼はゆっくりと振り向く。
ああ、やっと私の顔を見てくれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7510k/>

To see my face, and

2011年10月6日08時16分発行